

# iCrip

アイクリップ マガジン  
magazine

2012.03  
vol. 20

Doctor's Life Design  
Magazine

## 研修医の声

社会福祉法人 函館共愛会 共愛会病院

倉敷医療生活協同組合 総合病院 水島協同病院

JA長野厚生連 安曇総合病院

沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院

医療法人社団 順江会 江東病院

## クローズアップ地域医療

新・鳴滝塾(長崎県)

KMCC(京都府)

ドクタマ 医魂

佐々木洋

## ねじ子のMedical Life Hacking

闘う在宅診療医 孝志郎日記

プレッシャーでぶるるるる!の巻

F  
Free read  
Free enjoy

特集

ねじ子式  
マッチング初めてガイド

保存版

memoriad

## 教えて! 新・鳴滝塾のこと

2010年7月、県内の基幹型臨床研修病院と長崎県による「長崎県医師臨床研修協議会(新・鳴滝塾)」がスタートしました。研修医にとってメリットの大きい、この新たな試みとは? 同協議会の事務局長でもある濱田先生に話を聞きました。

## Q1 新・鳴滝塾が発足した目的は?

### A. 長崎県の医療研修の質を高めるため

研修医に良質の学びを提供し、指導医のスキルとレベルを上げること。これまで個別にそれらの取組みを行っていた各病院が連携することで、お互いの良い点を引き出して相乗効果を図るのが狙いです。

## Q2 新・鳴滝塾の具体的な活動内容は?

### A. 医学生には合同説明会と見学時の旅費の補助がメインです。

研修医には地域研修に出向く際の旅費補助や後期研修での説明会実施、さらにハワイへの海外研修のサポートなど。後期研修医には住宅補助も。

## Q3 4年連続で研修医が増加している要因は?

### A. 県が若い医師を増やそうと活動してきた成果

県の取り組みの象徴が、新・鳴滝塾の発足といえます。伝統的に医師の教育マインドが熱い長崎の風土が、新・鳴滝塾による施策と相まって、研修医の増加を導いたのでしょう。



長崎大学病院 医療教育開発センター

濱田 久之 教授  
新・鳴滝塾 事務局長

## Q4 新・鳴滝塾の今後の活動予定は?

### A. 各地でPRブースを展開、新・鳴滝塾の取組みや県内の病院の認知度を高める

福岡、大阪、東京などで開催される説明会にも出展予定なので、新・鳴滝塾のホームページをチェックしてください。多くの学生の皆さんに、長崎の研修のことを知って欲しいと思います。

## Q5 長崎の魅力を一言で説明すると?

### A. 人に対して壁を作らない風土、人間関係が温かい

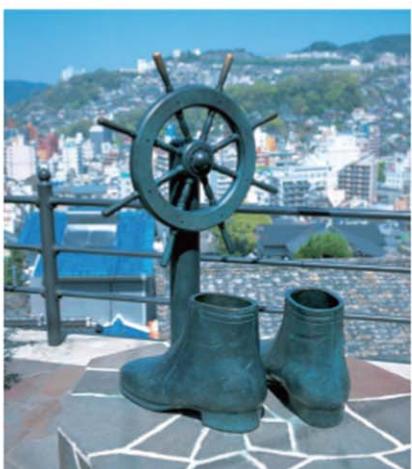
ある研修医に「なぜ長崎に決めたのか?」と聞いたところ、「街が気に入ったし、人の温かさに触れて、自分に合うと思ったから」と。まさにそれこそが長崎の魅力です。



新・鳴滝塾で活躍する指導医への  
インタビューへとつづく

# 長崎に見学に行こう！

## ～4年連続研修医数増の秘密！～



注目

合同説明会・  
見学時などの  
旅費の  
サポートあり

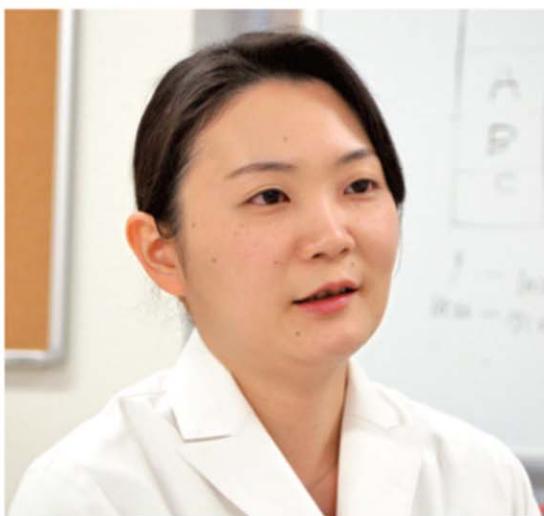


### 新鳴滝塾とは？

長崎県で初期・後期研修、1ターン、Uターンをお考えの皆さんの為の公的機関によるサポートシステムが「新・鳴滝塾」です。ぜひ長崎であなたの夢をかなえて下さい。

### 県内17病院のネットワーク

長崎大学病院、長崎市立市民病院、長崎原爆病院、済生会長崎病院、上戸町病院、長崎北徳洲会病院、長崎医療センター、市立大村市民病院、健康保険諫早総合病院、長崎県島原病院、佐世保市立総合病院、長崎労災病院、佐世保中央病院、佐世保共済病院、長崎県五島中央病院、長崎県上五島病院、長崎県対馬いづはら病院



# 長崎県17の研修病院 のことがまるごとわかる 合同説明会にぜひ足を 運んでほしいと思います

小畠 陽子 医師  
長崎大学病院  
内科

## 2

### 指導医の声

VOICE OF RESIDENT SP

長崎県の医療環境の中心ともいえる長崎大学病院。新・鳴滝塾でも、病院連携による学びの核になる存在である。今回は、内科で活躍する小畠先生に大学病院の魅力や研修内容について話をうかがった。

#### ■長崎大学病院での研修の特長について教えてください。

昨年度からプライマリ研修を取り入れました。長崎市の医師会と協力し、市の夜間急患センターの小児科と内科で研修を行っています。また、大学病院では各ローテート科での研修を行いながら、年間を通じて救命救急センター準夜帯での研修を行っています。1次から3次救急まで診られる研修は、長崎大学病院の特色といえるでしょう。

研修医の指導は少人数制によるマンツーマン。たとえば内科であれば、チームの中に必ず入ってもらい、研修医1人に指導医2~3人が指導する体制になっています。多くの先生方と知り合いになって、人脈が作れるのは大学病院ならではの利点。その上で、より高度な専門性の高いスキルが学べます。

#### ■研修プログラムについてはどんな利点がありますか？

非常に自由度が高く、研修途中でのローテート科の変更など、個々のニーズに合わせたオーダーメイド・カリキュラムが可能です。大学病院のプログラムと協力

病院へのたすきがけ方式のプログラムを併用していて、必修科目さえ履修すれば、2年目を特定診療科に特化することもできます。プライマリから3次救急まで、自分の考えるプログラムが高度に実践できることが最大の魅力です。

また、昨年度からメンター制を導入し、プライベートから仕事、将来のキャリア形成まで相談できる指導医を各研修医につけています。その結果、ローテート科の指導医、メンターの指導医、医療教育開発センターの指導医という3方面からフォローで、研修サポート体制をより強化しています。

#### ■長崎大学病院で研修医から人気の高い診療科目は何でしょうか。

感染症分野は日本の中でもトップクラスで、研修医は全国から来ていますね。また、「国際ヒバクシャ医療センター」は国際的にも非常に高い評価を受けており、現在も福島県で医療支援を行っています。あとは、肺、肝臓、腎臓などの移植実施施設にも認定されているので、移植医療分野に興味のある人にもお勧めです。

#### ■研修医を指導する際、どんな部分に気をつけていますか？

研修医には、自分で考える力を身につけて欲しいと思って指導をしています。何のためにするのか、どうしてそうなるのかなど常に考えながら研修を行うことで、1人の患者さんからたくさんのこと学べます。スキルアップのための基盤として、ぜひ自分で考える癖を身につけて欲しいと思います。

#### ■新・鳴滝塾のスタートによって、どのようなメリットが生じていますか。

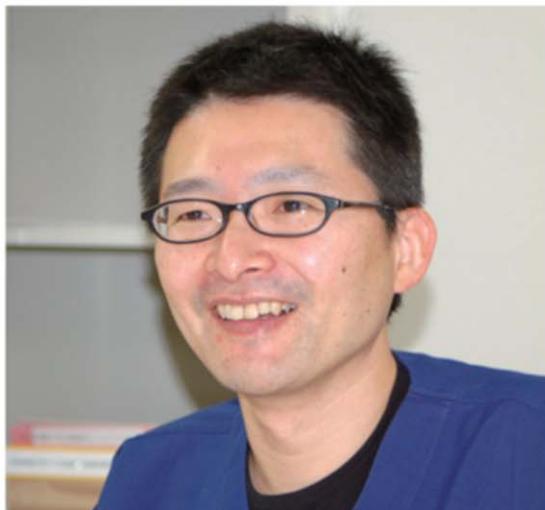
新・鳴滝塾のPRにより、実際に見学の学生が増えていますし、初期研修医の増加にもつながっています。指導医にも講習会などの研修の場を提供してくれますし、セミナーの主催なども活発で現場の医師が受けるメリットは多いです。

新・鳴滝塾が主催する合同説明会は、医学生にぜひ来てもらいたいですね。当院ではすべての医局が出ていますし、それぞれの病院が横一線で紹介されていて、良い刺激になると思います。私たちもその場で、普段なかなか交流をもてなかつた他の病院のことを知る機会になりますね。

#### ■長崎県の魅力について教えてください。

街全体の雰囲気がとてもフレンドリーで、他県から来た人も温かく受け入れる風土が長崎の特長です。それは大学病院も同様で、出身にこだわらず、誰にでもオープンに接する雰囲気がありますね。住みやすさという意味では、長崎は申し分ないでしょう。人が優しくて、食べ物がとても美味しい。特に海の幸は、一度食べると都会のものはきっと食べられなくなりますよ。





## 研修医が他の病院と質の高い交流ができるのは私たちから見ても羨ましい環境です

日宇 宏之 医師

国立病院機構 長崎医療センター  
救命救急センター

### 1

#### 指導医の声

VOICE OF RESIDENT SP

優れた救命救急センターを有し、離島医療にも力を入れながら、急性期領域をはじめとした最先端医療を実践する長崎医療センター。研修医にも人気の高い救急の第一線で働く日宇先生に話を聞いた。

#### ■研修医にとっての長崎医療センターの特色について教えてください。

当院では現在の初期研修が始まる前の1971年から、すでにスーパーローテ的方式で研修を実施していました。これまでに延べ800人以上を輩出しています。現在もプライマリケアを重視し、ほぼ全科目が揃っており、離島医療にも力を入れています。

離島医療圏の地域研修は、初期研修2年間で1カ月ほど必ず経験します。医療センターとの連携を密にして診療にあたり、重症患者などがいればドクターヘリで高次病院まで運びます。医療センターが親元的な位置付けで機能していますから、離島医療を専門的に学びたいと思う人にとっては、医療センターは相応しい環境だと思いますね。地域のニーズに合った医療を経験しようと考えるのであれば、長崎県では離島医療になるでしょう。

#### ■プログラムでの独自性はどこにありますか？

私は救命救急が専門ですが、当院では救急は3カ月間の必修科目です。その中で、基本的な診察や手技、初期対応を含

む診療や輸液や栄養管理など集学的治療の基本をしっかりと学んでもらうのがポイントです。救命救急に重きを置いて、臨床のノウハウが高度に充実している点は他の施設に勝る部分だと思います。

#### ■研修医の皆さんはどうな意識で学んでいますか？

研修医は、1学年で20名強が在籍していますが、研修医同士の団結力が強いことが特徴だと思います。病棟で患者さんに何かあったときに、お互いにカバーし合い、協力し合う。研修医同士の横つながりが強いと感じますね。ほとんどの研修医が寮に住んでいるし、40人くらいが入れる研修室に集う機会も多いので、そうした場でコミュニケーションをとっているのだと思います。けっこう体育会系のノリで活気がありますね。

研修医に対しては、看護師やコメディカルスタッフが日々の学びを強力にサポートしてくれます。研修医に学ばせるべき症例とそうでないものの判断がきちんとできるスタッフが揃っています。みんな研修医の扱いが非常に上手い(笑)。それが現場における教育の充実につながっていると思います。

#### ■新鳴瀬塾に期待することはありますか？

長崎県という枠組みの中で、他の病院と積極的な連携がはかれるのは大きいです。たとえば大学病院は、規模も人員も非常に多く専門家も多彩なので、優れた知識やノウハウを持っています。提携して一緒にやることは他の病院にとっても

メリットが大きいですね。たとえば、救急科専門医の後期研修プログラムとして、長崎医療センターと長崎大学病院の救命救急センターが手を組んで、研修医を育てる仕組みもスタートしています。今までには、そうした具体的な人的交流はなかつただけに、私たちから見ても羨ましいと感じますね。

#### ■医学生の皆さんにメッセージをお願いします。

研修医になつたら、積極的に患者さんに向き合っていってほしいと思いますが、その中で、自分にできることとそうでないことを正確に見極められる判断力を身につけてほしいです。3カ月間、救命救急を学んだ研修医が、見違えるほどたくましくなった姿を目にしてすると私たちも嬉しいものです。指導医の私たちも日々研鑽だと思っていますので、お互いに向上心をもってぜひ一緒に頑張っていきましょう。まずは気軽に、「長崎に旅行してみようか」という気持ちで、見学に足を運んでほしいと思いますね。



## 長崎県の研修医に聞きました。「病院のいいところ・長崎のいいところ」



### 新・鳴滝塾 インフォメーション

#### 県内17病院のネットワーク

長崎大学病院、長崎市立市民病院、長崎原爆病院、  
済生会長崎病院、上戸町病院、長崎北徳洲会病院、  
長崎医療センター、市立大村市民病院、健康保険諫早総合病院、  
長崎県島原病院、佐世保市立総合病院、長崎労災病院、  
佐世保中央病院、佐世保共済病院、長崎県五島中央病院、  
長崎県上五島病院、長崎県対馬いづら病院

**長崎県17病院の見学・実習に関しては  
長崎県 新・鳴滝塾ホームページをご覧下さい。**

**URL:[www.narutaki-jyuku.jp](http://www.narutaki-jyuku.jp)**



## 指導医のスキル向上が 新・鳴滝塾の効果 研修や勉強会を 積極的に利用したいですね

蒲原 涼太郎 医師  
佐世保市立総合病院  
呼吸器外科

### 3

### 指導医の声

VOICE OF RESIDENT SP

長崎市と並ぶ県内の中核都市である佐世保市。ほぼすべての科をカバーする市中病院として、長く地域を支える存在として地元に根付いている佐世保市立総合病院。蒲原先生にその特色や長所を聞いた。

#### ■研修先としての佐世保市立総合病院の特色は?

地域の基幹病院で、症例数が非常に多いところと、大学病院のような特殊な症例というよりは、一般的な症例数が多く、その中で稀な疾患も診ることができます。ほぼ全ての科が揃っているという意味では長崎県の市中病院では当院がトップクラスだと思います。コモンディジーズを学びたい、基礎固めをしっかりしたいという研修が多いですね。

また研修をしていく中で、プログラムに変更を加えたいときなどは、上級医に相談してパターンを変えたり、臨機応変に組換えができます。選択の自由度の高い点は、他の病院と同様ですね。

#### ■佐世保という土地ならではの特徴的な点は何かありますか?

一つは、米軍基地が近くにあるので、外国人の患者さんが比較的に多いということです。また、新たな取り組みとして、米軍内の診療所に研修医が週に何度も出向き、アメリカ人の医師の手伝いをするカリキュラムを試験的に行っている点

は特色といえるでしょう。臨床での英語を実際の現場で学ぶことにもつながり、研修医には好評のようです。

#### ■蒲原先生が研修医の指導で気をつけている点はどんなことですか?

研修医への指導の方針は、基本的にそれぞれの指導医に任せています。その中で私が心がけているのは、あまり細かく指導し過ぎないようにしている点でしょうか。自分で考え、自分でやるべきことを見つけられるように仕向けていたいと思っています。

#### ■新・鳴滝塾の取り組みで長崎の研修環境がどのように変わってほしいですか?

各病院が力を合わせることで、情報発信力は間違いなく向上していると思います。医学生にとっては研修に関する情報が得やすくなっているんじゃないでしょうか。また、病院見学の際の金銭的なサポートは、医学生にとっても有益でしょう。見学者がさらに増えてくれればと思っています。それぞれ病院については、実際に訪れて自分の目で見ないことには分かりませんから、その大切な機会を新・鳴滝塾がサポートしてくれるのは大きいですね。

#### ■その結果、長崎県の医師増加につながることを期待したいですね。

私は外科医なので、学生たちには正直外科医になってほしいという気持ちがあります。医局に属しているので、外科医を入れたいという気持ちになりがちで、長崎全体を考えて、他の科の医師も含めて増えてほしいという働きかけがなかなかできないんですね。だからこそ、そのよう

な役割を新・鳴滝塾にやってもらわればと思います。研修医が増えれば、その分長崎に残ってくれる医師も増えるでしょう。そのためには、私たち指導医のスキルも上げていかなくてはなりません。自分でも研修や勉強会などの機会を利用して、スキルアップを図っていきたいと思います。

#### ■佐世保市の街の雰囲気について教えていただけますか。

一言でいうと、異国情緒のある街並みです。私は高校まで東京の杉並区で過ごし、長崎大に進みました。そして、こちらの方が東京より住み良いと思ってそのまま長崎に残りました。東京の病院も見学に行きましたが、やっていることは長崎と大きな違いがなかったし、場所がどこでも、向上できるかどうかは自分次第だと思いました。

東京と長崎の一番の違いは、東京ではお金を出さないと美味しいものが食べられませんが、長崎ではいつでもどこでも安くて美味しいものが食べられます。魚なんて、ほんと最高ですよ!

